

研究主題「道徳科における、自己の生き方についての考えを深める児童の育成 －内容項目の関連を基に設定する『まとまりある学習活動』－」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
葛飾区立水元小学校 主幹教諭 矢田 佐和子

第1 研究のねらい

道徳科における「自己の生き方についての考えを深める」学習は、小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成29年7月）（以下、「解説編」と表記。）において、児童が「道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。」「自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。」「これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。」と示されている。教師は、児童に自己の生き方についての考えを深めさせるために指導方法の工夫に取り組んでいるが、「本当に深まっているのだろうか。」「この指導でよいのだろうか。」など、指導方法に問題意識をもつ教師は多いと思われる。

道徳科の目標に示されているように、自己の生き方についての考えを深めるためには、道徳的価値の理解とともに、自己の生き方を考えるための工夫が必要であると考えます。

そこで、本主題を設定し、児童が道徳的価値を多面的・多角的な視点から理解し、自己の生き方についての考えを深めるために、内容項目の関連を基に設定する「まとまりある学習活動」を着想し、研究を進めることにした。

第2 研究仮説

道徳科において、内容項目の関連を基に設定する「まとまりある学習活動」によって、児童は、道徳的価値を多面的・多角的に理解し、自己の生き方についての考えを深めることができるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 道徳的価値の理解のために、関連する複数の内容項目を扱う有用性について

先行文献等から、内容項目を関連させた学習は、あるテーマ（いじめ、環境問題）についての理解を深める利点があることが分かった。そこで、内容項目を関連させることは、道徳的価値の理解を深めることに有効であると考えた。

(2) 自己の生き方についての考えを深めるための視点の設定の有用性について

先行研究より、自己の生き方についての考えを深めるためには、児童の生活体験を想起させたり、これからの生き方を考えさせたりする視点が必要であることが分かった。

2 調査研究

児童が、内容項目の関連性をどのように意識しているかを明らかにするため、学校の道徳教育の重点項目と他の内容項目との関係の捉え方を調査した（表1）（表2）。

（表1）では、生命の尊さと他の内容項目は関係があると捉えている児童が90%を超えていた。（表2）では、節度、節制と他の内容項目との関係は、上位3点のみ90%を

表1 生命の尊さと関係性がある上位の内容項目

内容項目	%
よりよく生きる	96
節度、節制	95
親切、思いやり	94
感謝	93
自然愛護	93
自由と責任	93
公正、公平	90
友情、信頼	90

表2 節度、節制と関係性がある上位の内容項目

内容項目	%
自由と責任	97
規則の尊重	96
生命の尊さ	96
親切、思いやり	88
自然愛護	85
家族愛	84
正直、誠実	82
礼儀	82

都内公立小学校8校、第5・6学年児童対象

超えていた。

以上より、児童は、ある特定の内容項目と他の内容項目との関係性を意識していることが分かった。また、関係する内容項目は自分の生活体験等を基に選択したと推測した。

そこで、調査研究の結果を、「まとまりある学習活動」における内容項目の選択、配列に生かすこととした。

3 開発研究

「まとまりある学習活動」とは、1時間ごとの学習を関連する内容項目でつなげた学習活動と定義する。この「まとまりある学習活動」によって、児童は、自分の身近な生活経験を思い出し、自分の生き方についての考えを深めることができると考えた。

「まとまりある学習活動」を構成する視点は次の2点である。

(1) ある道徳的価値の理解を深める視点 (図1)

自己の生き方についての考えを深めるためには、道徳的価値の理解を深めることが重要である。そこで、「まとめ」の道徳的価値の理解を深めるために、第1時から第3時までの時間において、「まとめ」の内容項目を意識した発問を設定した。

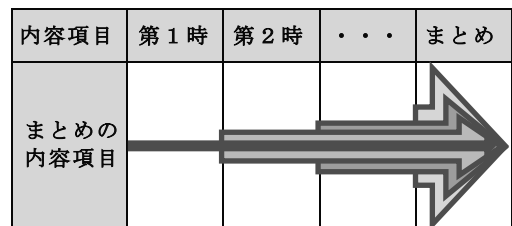


図1 「まとめ」の道徳的価値の理解を深める過程

(2) 自己の生き方についての考えを深める視点

道徳的価値を多面的・多角的に理解をするために、以下の2点を設定した(図2)。

ア 前時の内容項目を生かす

前時に学習した内容を本時に反映させて、本時で学習すべき内容項目を多面的・多角的に理解できるようにした。

また、学習の積み重なりにより、「まとめ」の学習で、自己の生き方を深く考えられるようにした。

イ 自己の生き方を考える視点を与える

各時間の終末において、児童が自分の生き方についての考えを記述しながら深められるように、「自分自身の問題」、「自分の特徴」、「伸ばしたい自己」、「実現への思いや願い」の4点を記述のための視点として設定し、児童のワークシート上に示した。

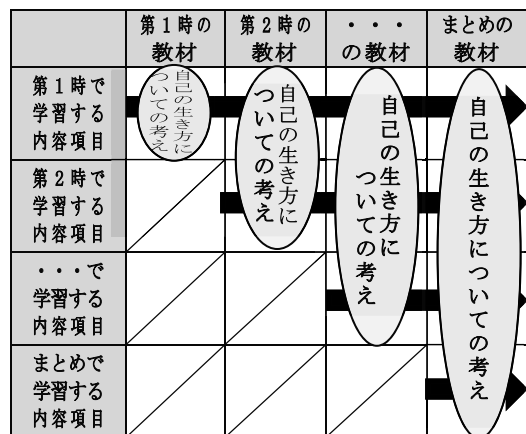


図2 「まとめ」の学習で自己の生き方についての考えを深めるための過程

(3) 内容項目の選択と配列について

解説編において示されている各内容項目について、児童の意識調査の結果を基に把握し直し、児童が自己の生き方についての考えを深めることができるように、内容項目間の関連を十分に考慮したり、指導の順序を工夫したりした。

4 検証授業 (使用教材: 『すまへん』でいい「タマゾン川」「黄熱病とたたかい」「東京大空襲の中で」)

(1) 検証の視点

ア 道徳的価値の理解を深める発問

解説編に示されている生命の様々な側面に記号を付け(表3)、生命の尊さについての理解

表3 生命の尊さの様々な側面

A	生命のかけがえのなさ	D	様々な人々との精神的なつながりや支え合い
B	生命の尊厳	E	生命のつながり
C	生命に対する畏敬の念	F	生命が宿る神秘

を深める発問を設定した（表4）。

イ 自己の生き方についての考えを深める発問（表5）

児童が、各時間で自己の生き方について深く考えられるよう前時の学習を踏まえた発問を設定した。

表4 道徳的価値の理解を深める発問

	第1時 「すんまへん」でいい	第2時 アマゾン川	第3時 黄熱病とのたたかい	第4時 東京大空襲の中で
生命の尊さに関する発問と命の側面	おやじさんはなぜ怒鳴らずに厳しく言ったのでしょうか A E	「わたし」はどのような生き方をしている人でしょう A B D	英世さんが死んでしまうと研究も終了になりませんか C D	看護師はどんな考えで厳重な囲いを作ったのでしょうか A B C D E F

表5 自己の生き方についての考えを深める発問

	第1時 「すんまへん」でいい	第2時 アマゾン川	第3時 黄熱病とのたたかい	第4時 東京大空襲の中で
第1時 節度、節制を踏まえた発問	心から謝るといふのはどういふことですか	どんな気持ちで外来魚を捨てているのでしょうか	「ねむらない日本人」について、どう思っていますか	看護師たちが自分勝手に逃げなかったのはなぜですか
第2時 自然愛護を踏まえた発問		なぜ皆が川に関心をもつことを望んでいるのでしょうか	英世さんはアメリカの自然に何をみたのでしょうか	武者さんは焼け野原になった東京に何をみたのでしょうか
第3時 感謝を踏まえた発問			英世さんはなぜ、そんなに研究に力を入れたのか	武者さんは、看護師の対応にどんな思いでしたか
第4時 生命の尊さを踏まえた発問				看護師たちはどんな考えで、厳重な囲いを作ったのでしょうか

(2) 検証の結果と考察

ア 道徳的価値の理解を深める発問について

(7) 結果

- ・ 検証前後、児童に生命について聞いた結果、児童の生命の尊さについての記述数の増減や記述内容に深まりが見られた。
- ・ 学習前にA、B、Cの視点（表3。以下同様）のみで生命について考えていた児童のうち、

80%が学習後に新たな視点をもつことができた。特にD、Eの視点の増加が著しかった。

また、学習前にD、E、Fの視点ももち合わせていた児童は、学習後にD、E、Fの記述内容に深まりが見られた。

- ・ 記述の内容から、検証後における生命の尊さについての児童の理解が、節度・節制や感謝を学習した内容項目と関連させて生命を捉えたと分かる内容に変化していた（表6）。

表6 生命の尊さの理解に関する内容を書いた児童

第1時	第2時	第3時	第4時
15%	64%	70%	98%

(4) 考察

- ・ D「様々な人々との精神的なつながりや支え合い」、E「生命のつながり」について、多面的・多角的に考えられるようになったのは、児童が、師弟関係のつながり、身近な自然と生態系の関係、一人の研究が人類全体への功績につながることに、過去から今を経て将来までの時間的つながり等に気付くことができたからであると考えられる。
- ・ 生命の尊さに関して、児童の気付きが蓄積となり、児童の道徳的価値の理解を深められたと考える。また、第1時に生命の尊さの理解に関する内容を書いた児童が15%であることから、学習が積み重なるごとに、児童自身が意識的に生命の尊さを捉えることができたと考えられる。

イ 自己の生き方についての考えを深める発問について

(7) 結果

- ・ 前時の内容項目を踏まえた発問をしたことで、児童は、前時の学習を振り返り、自己の生き方について考えた（表7）。

表7 前時の学習を踏まえた児童

	第2時	第3時	第4時
内容項目	自然愛護	感謝	生命の尊さ
節度、節制	58人	38人	16人
自然愛護		1人	1人
感謝			20人
生命の尊さ			90人

- ・ 第4時に前時までの内容項目を踏まえたり、生命の尊さの様々な側面を生かしたりして

自己の生き方についての考えを記述した児童は 58%であった (図 3)。

(1) 考察

- ・ 導入の工夫により、児童は、前時の学習内容を想起しやすくなり、前時に学習した内容項目を関連させながら自己を見つめ、自己の生き方を考えられたと思われる。

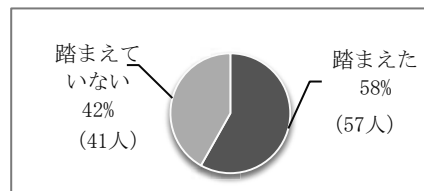


図 3 第 4 時の振り返りに前時の学習を踏まえた割合

自然愛護の項目については、第 3 時、第 4 時の教材で

の自然の扱いが描写のみであったため、児童が自然愛護の視点を関連させながら、自己の生き方についての考えを深める必然性が高まらなかったと考える。

- ・ 児童の記述内容から、児童は第 1 時と第 3 時の学習で扱った「節度、節制」「感謝」の各内容項目における生命の尊さとの関わり (自分の生活を振り返る「節度、節制」、生命は支えられている「感謝」) を意識することができたため、第 4 時では生命の尊さを多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができたと考える。

(3) 「まとまりある学習活動」における学習状況からの分析

児童 A は、前時に学習したことを踏まえながら、各時間の道徳的価値を多面的・多角的に理解し、現在の自分、周りの人々、将来の自分という視点で自己の生き方を記述することで、自己の生き方についての考えを深められたと考えた (表 8)。

表 8 児童 A の学習状況 (__ は生命の尊さを捉えた箇所、 ___ は生命の尊さ以外の内容項目を踏まえた箇所)

	A 児が書いた振り返りの抜粋	各内容項目を踏まえた言葉	内容項目分析
第 1 時	次に失敗しないように、どのように直すべきかを <u>考えて行動して、一度してしまったことを繰り返さないような生き方をしたい。</u>	考えて行動 繰り返さないような生き方	節度、節制 B 生命の尊厳
第 2 時	環境に対して軽い気持ちで生き物を飼っていると、 <u>自然の関係を崩してしまうと分かった。自分ももっと生き物に対して大切に飼ってあげて、たとえ、飼いたくないなど</u> と思ったとしても、自分が飼ったので、 <u>責任をもっていきたい。人々にも大切に生き物を飼ってほしい。</u>	自然の関係 責任をもって 生き物に対して大切に 人々にも大切に生き物を飼ってほしい	自然愛護 節度節制 A 生命のかけがえのなさ A 生命のかけがえのなさ
第 3 時	<u>つながりはとても大事だ</u> ということが分かった。野口さんは今まで支えてくれて来た人に <u>感謝</u> し、世界中で黄熱病に <u>苦しんでいる人を助けたい</u> という思いが強くなって <u>アフリカに行ってしまった</u> と思う。僕もみんなのために実行していきたい。自分の今の生活に <u>感謝の心</u> をもって、 <u>今、生きていることに誇りをもちたい。</u>	つながり 感謝 苦しんでいる人を助け 行ってしまった 感謝の心 生きていることに誇り	D 精神的なつながりや支え合い 感謝 A 生命のかけがえのなさ 節度、節制 感謝 B 生命の尊厳
第 4 時	<u>亡くなった人の気持ち</u> になったら、なんでこんなことで <u>命を落とすんだらうと悲しくなる。</u> 今の平和の世の中を <u>当たり前</u> と思わないで、 <u>産んでくれた母親、支えてくれた地域の方に感謝</u> して <u>これからの生活</u> を大切にしたい。なにか被害や苦しんでいるときに、 <u>自己中心的</u> にならないで一人でも多くの人の命を救えるように <u>みんなと助け合えるような人</u> になりたい。	亡くなった 命を落とす 産んでくれた母親 支えてくれた地域の方 感謝 これからの生活 自己中心的 一人でも多くの命を救う みんなと助け合う	B 生命の尊厳 B 生命の尊厳 F 生命が宿る神秘 D 精神的なつながりや支え合い 感謝 E 生命のつながり 節度、節制 B 生命の尊厳 D 精神的なつながりや支え合い

第 4 研究の成果

- ・ 児童の実態を基にいくつかの内容項目を関連付けて「まとまりある学習活動」として連続的に指導することで、児童は道徳的価値を多面的・多角的に考えることができ、自己の生き方についての考えを深めることにつなげることができた。

第 5 今後の課題

- ・ 「まとまりある学習活動」に適切な時間数を検討する。
- ・ 「まとまりある学習活動」に全体を振り返る時間を位置付けることによる効果を検証する。